

渡辺家文書目録解題

渡辺家は上越市東本町3に所在する「府中八幡宮」の祭祀に携わった社人二家のうちの一家で、渡辺信濃守左近家の子孫である。当渡辺家は代々学芸に秀で、近世後期から学塾を開き、地域の師弟の教育に尽力する一方、室生流の謡曲をよくし、その普及に努めた。渡辺家に伝来する史料1,367点の概要は次のとおりである。

1. 八幡宮領等に関する文書群

4代家綱、5代綱吉、11代家斉、13代家定の朱印状本紙と多数の朱印状の写がある。また、松平忠輝が福島城主となった慶長15年(1610)の(松平忠輝年寄連印御馬寄進状)がある。この文書は『上越市史』別編3 寺社資料一の口絵に掲載した。この他に、寛保3年(1743)の榊原家の「禁制」、安政4年(1857)の「御朱印頂戴行列並諸事控」、慶長5年(1600)の「府中八幡宮八幡村田畑反別名寄帳」(写)、天和1年(1681)の(府中八幡宮年貢帳)、文化8年(1811)の「府中八幡宮領八幡村御田地証文写」などがある。

2. 社家に関する文書群

慶長16年(1611)からの「渡辺系図」には、近世の初代安成から八代安登までの記載がある。また、延宝7年(1679)の(府中八幡神主諍論御裁許状御本紙)、宝暦7年(1757)の神道裁許状、慶安4年(1651)の「中臣祓抄本」(木版)、元文5年(1740)「年数代々日記」(神職としての備忘録)などがある。

3. 神社の修築造営に関する文書群

安永5年(1776)の「八幡宮拝殿御普請諸用日記」、文化9年(1812)の「御宮修復講金割合覚帳」、安政3年(1856)の「八幡宮鱗屋根葺替入用日記」、明治4年の「御本社並祓殿再建諸雑費控」、明治28年の「神殿大修繕並公園開設日記」などがある。

4. 渡辺左近・外記・貢らに関する文書群

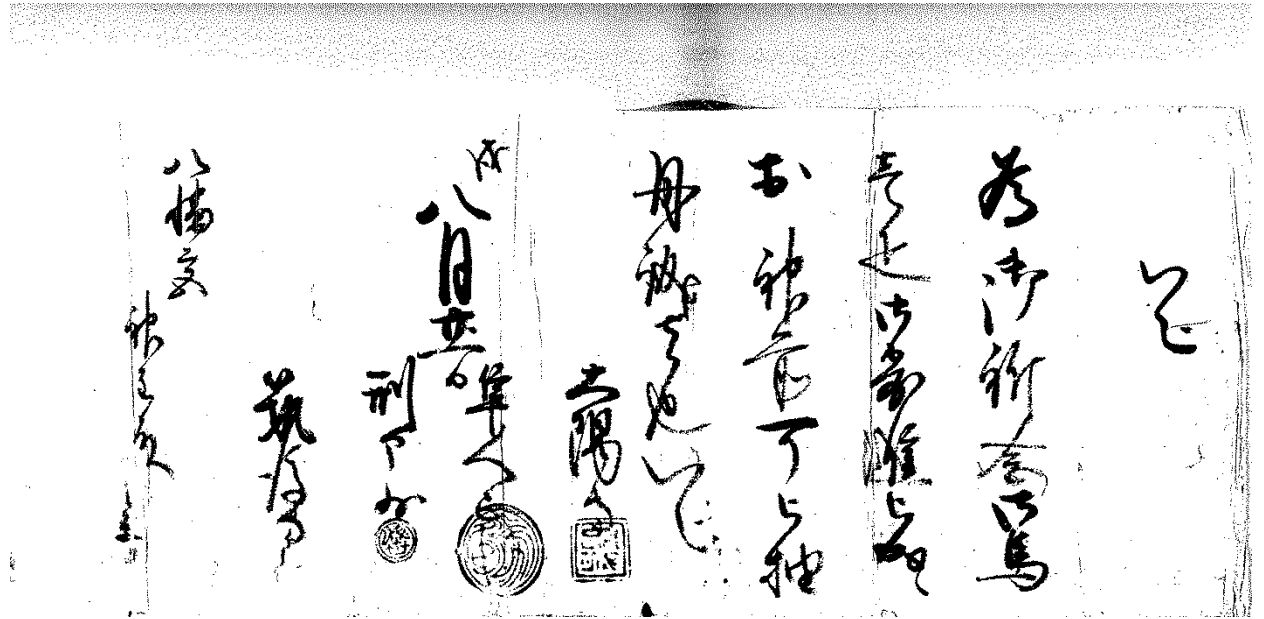
文化8年(1811)の「二君堂詩集初編」、天保6年(1835)の(渡辺左近・月斎への追悼文)、文政4年(1821)の「詩稿」(松塙)、嘉永3年(1850)の「日記」(貢)、年欠の「詩草稿」(貢)などの他、多数の書状、漢詩文、絵画などがある。

5. 渡辺文吉(巖・芹溪)に関する文書群

天保5年(1834)の出生から明治6年までの記載の「履歴書」(明治8年の「居多神社合殿八幡宮社木伺」の綴の中に合綴)や明治6年の「東京日記之一、二」などの他、明治5年の今町分覺教師の辞令、明治6年の八幡宮祠官と菅原神社祠官兼勤の辞令など多数の辞令がある。また明治7年から居多神社の祠官を兼務したことから居多神社関係の文書も多い。その他神職や教職の文書、明治30年の「宝生流謡曲入門簿」や明治35年の「宝生倶楽部設立之趣意」など謡曲関係の文書、年次の「渡辺芹溪詩文」など、多数の漢詩文や書状がある。

6. その他の文書群

寛保2年(1742)の「公事訴訟御仕置御定書写」や延享2年(1745)の「規矩元法目録」、延享3年(1746)の「御蠟点諸書物留帳」、明和5年(1768)の「乍恐今町湊騒動一件以書付奉願上候」、天保3年(1832)の江戸絵図、天保9年(1838)の「大塩平八郎一件申渡御仕置書写」、明治14年「皇国地誌編輯」(八幡村村誌)などがある。



(寄進状) (慶長 15 年 8 月 21 日)
八幡宮神主 ← 大隅守・隼人正・刑部少・筑後守
御馬一疋寄進状